

辻元清美の

永田町航海記

88

イラストレーション/石坂啓

今

日は八月三十一日。「菅 vs. 小沢」が実現か、最後の駆け引き中。

「なぜ小沢さん？」という批判をもつともせず手を挙げたのなら、徹底的に政策論争を展開してほしい。日本政治を問う直し、前に進めるためには避けられない対決なのかも。民主党が割れる？ 政界再編への幕開けになるのでは。出遅れないように準備体操だ、などと大雨の韓国・ソウルでヤキモキ。

八月二十六日から三〇日までソウルへ。二六日朝、関西国際空港の出発ロビーで「小沢二郎前幹事長が民主党代表選へ」というニュースが。「ホンマかいな」。搭乗直前、事情通そうな議員や記者に電話。先月、ある民主党幹部が「小沢さんしかない」「えー?!」と半信半疑。でもやけに力強かった。

仁川空港から文化体育観光部へ直行。「韓国の政治も激しいけど日本も同じだねえ」。久しぶりのユ・インチョン長官の第一声。韓国でも「菅と小沢の一騎打ちか」が注目されている。

昨年、日・中・韓の観光大臣会合で「東アジアの観光交流の活性化」を決

リターンズ

菅さんと小沢さんのぶつかり合いは私たちの次世代政治家への「贈り物」?



めた。私は観光立国推進本部の事務局長として中国からの個人観光客のビザ取得要件緩和をまとめた。今年七月一日から施行、中国人渡航者増加を局長官に伝える。韓国では法務部の抵抗で未決定。日本でも法務省や警察庁は渋っていた。どこも同じ構図だ。財政出動を伴わない経済対策。まさしく政治の意思で決めたのだ。日本に来て旨いモン食べて友だちつくって帰ってもらう。自然な交流の積み重ねが東アジアの緊張を解きほぐす特效薬だ。憲法九条の理念の体現になるし、内需の拡大にもなるし、雇用も生まれる。力を入れて進めた政策だ。福山哲郎前外務副大臣と発表のタイミングまで慎重に詰

めた。いま福山さんは官房副長官として小沢さん立候補でテンヤワンヤかも。翌日はシン・ガクス外交通商部第一次官と会談。国連本部時代ピースポーツとも接点があったとのこと。外交でのNGOの重要性を的確に認識されている。歴史問題も議論する。

二九日は朝鮮半島植民地支配開始一〇〇年の日。市民集会在ソウルで開催され、私も午前中に見学コースに参加。旧知の市民運動関係者と会う。政治と市民の動きの両輪が噛み合ったとき、ことが大きく動く実感した。

訪韓中も各方面から電話が鳴りっぱなしだった。「政界再編だ」の自民党議員の興奮気味の電話には驚いた。

昨夜関空に戻った途端、「伝書鳩」鳩山前総理仲介のニュース。そして今日、激突か回避か。まだ各陣営協議中。

理念・政治姿勢・政策実現能力・政局勘・選挙闘争力、この五つが政治家には必要だ。田中角栄元総理仕込みの小沢さんと、市川房枝さんが出発点の菅さんの対決には大きな意味がある。全存在をかけた二人のぶつかり合いは、ひょっとしたら私たちの次世代の政治家への最大の「贈り物」ではないか。大先輩としても反面教師としても。さて、二人の「胆力比べ」の行方はいかに？

(つじもと きよみ・衆議院議員)